

# 平成30年度 主題研究推進案

福岡市立東月隈小学校  
主題研究推進部

## 1 研究主題

主体的に学ぶ意欲を持ち、わかった・できたと実感できる算数科の授業づくり  
～複数問題を取り入れた学習過程の工夫を通して～

## 2 主題設定の理由

### 【本校児童の実態から】

本校の児童の算数科における学力の実態は厳しく、近年の学力調査においては、依然として多くの学年がまだ全国平均を下回っている状態である。昨年度までの三年間、全員が授業に参加し、確かに学び合い、学びのよさを実感できる授業づくりに取り組んできた。さらに、一昨年度と昨年度の二年間は、授業のあらゆる過程に子どもたちの学びを活性化するためのユニバーサルの3つの視点（視覚化・焦点化・共有化）を大切にしながらユニバーサルな手だてを取り入れること、複数問題を設定した授業構成を工夫していくことを目指して実践を重ねてきた。

その結果、一つ目の学習問題で見通しを持たせることで低位の子どもたちが意欲的に次の問題に取り組む様子が見られたり、必ず交流活動を仕組み、自分の考えと友だちの考えとを比較したり自分の考えを強化したりすることで、交流への意欲も高まってきた。

しかし、これらの意欲は、まだ「答え」を伝えようとするものにとどまっており、その「意味」や「理由」を伝えようとする姿までには至っていない。答えは発言できても、図や式の意味を問われたり、自分の言葉で考えを説明したりすることを求められると表現することが難しかったり、表現すること自体に消極的になってしまったりするという実態がある。それは、児童の理解が、どうしてそうなるのかという数理の理解までには至っていないからだと考えられる。

このような児童の実態を見た時、児童が「できそう」「やってみよう」と思いながら1単位時間の授業の最後まで学ぶ意欲を持ち続けてほしい、「意味」や「理由」を問われた際にも、友だちの考えも参考にしながら自分なりに答えようとする姿が見られ、授業の最後には「わかった」「できた」と実感してほしいと考えた。

そこで、研究主題を、これまでの研究を土台とし、「複数問題を取り入れた学習過程の工夫を通して、主体的に学ぶ意欲を持ち、わかった・できたと実感できる算数科の授業づくり」と設定した。

また、本校の学校教育目標として

基礎基本を身につけ、多様な考えを練りあう子どもの育成 思いや考えを、的確に表現する子どもの育成
--

を挙げている。

算数科の中では、以下のような姿であると考えられる。

- ・自分の考えを持つために必要な基礎基本をどの子も身につけること。
  - ・友達の多様な見方や考え方に触れ、自分の言葉で表現できること。
  - ・互いのよさを認め合いながら、数理を獲得したり、学びのよさを味わったりすること。
- 本校では、このような児童像を実現しようと考え、本研究に取り組むこととした。

### 【教育への新しい社会的要請から】

国際化、情報化などの急激な変化の中、学校教育においては、子ども一人ひとりが主体的に社会と関わっていく資質や能力を高め、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」を育成することが求められている。

また、福岡市教育委員会「新しいふくおかの教育計画」には、重視する教育の内容の一つとして、「子どもの力を引き出し発揮させる教育」が打ち出されている。その中の、「授業の充実」という項目の中に、「1日の中で多くの部分を占める授業は、子どもにとって楽しい・わかる・魅力のあるものでなければなりません。そこで、児童生徒同士の関わりや学習活動の工夫を行い、おもしろさや楽しさだけでなく、難しさや苦しさも乗り越えて「わかった!」「できた!」という達成感・満足感を実感できる授業づくりに取り組みます。また、そのために、教員が準備する教材や教具等の工夫も行います。」という記載がある。

以上のことから、算数科において、ユニバーサルの3つの視点(視覚化・焦点化・共有化)を生かしながら、複数問題を取り入れた学習過程の工夫を通して授業を充実させ、一人ひとりが確かに学び合うことができるようにしたいと考える。このことは、「生きる力」を育む上で重要であると考える。

### 【算数科教育のねらいから】

学習指導要領の算数科の目標には、

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようという態度を育てる。
---

とある。

目標のはじめに「算数的活動を通して」とあり、この部分が算数科目標の全体にかかっている。これは、それ以下に示されている目標を実現するための、学習指導の進め方の基本的な考えを述べたものである。算数的活動とは、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数にかかわりのある様々な活動を意味している。算数的活動には、様々な活動が含まれ得るものであり、算数に関する課題について考えたり、考えたことを表現したり説明したりする活動も算数的活動に含まれる。また、「進んで生活や学習に活用しようという態度を育てる」とあるが、活用するためには、まず授業に参加し、理解し、習得することが必要となる。

以上のことから、児童が主体的に意欲を持って授業に臨み、わかった・できたと実感できることをめざす本研究は、意義あるものと考えている。

## 3 研究主題の考え方

### (1) 主題の意味

#### ○「主体的に学ぶ意欲を持つ」とは、

「できそう」「やってみたい」という思いをもち続けて、1単位時間の授業に取り組む姿を指す。

#### ○「わかった・できたと実感できる」とは、

振り返り問題に自力で取り組み、「やっぱりできた」と思うことができている姿を指す。学習問題①、学習問題②、それぞれを自力で解決することを目指すのではなく、各問題に取り組む中で「できそう」「やってみたい」という思いをもったり「やったらできた」と思えたりしながら、最終的に1単位時間の学習を終えた時に、「わかった」「できた」と実感できることをめざす。

### (2) 副主題の意味

#### ○「学習過程の工夫」とは

一時間の授業の中に複数問題を設定し、それぞれの問題解決の過程が活性化するようにユニバーサルの3つの視点（視覚化・焦点化・共有化）を生かしながら、交流活動を仕組んだりして授業づくりをしていくことである。

#### 4 研究目標

- 複数問題を取り入れた学習過程の工夫を通して、主体的に学ぶ意欲を持ち、わかった・できたと実感できる算数科の授業づくりについて研究する。

#### 5 研究の仮説

ユニバーサルの3つの視点（視覚化・焦点化・共有化）を生かしながら、複数問題を取り入れた学習過程の工夫をした授業づくりを行えば、児童が主体的に学ぶ意欲を持って授業に参加し、わかった・できたと実感することができるであろう。

#### 6 本年度の研究の内容

- 一時間の授業の中で複数問題を設定し、授業のあらゆる過程に、ユニバーサルの3つの視点（視覚化・焦点化・共有化）を生かしながら、学びを活性化するためのユニバーサルな手立てを取り入れる。
- 複数問題の設定の仕方や提示の仕方が効果のあるものになるように、また、子どもたちのつぶやきを的確に取り上げながらその時間の数理に迫っていくことができるように、教師の授業技術の向上を図る。
- 夏休み前までに、全学級授業公開を行い、算数科学習の進め方の共通理解を図るとともに、授業のユニバーサルデザインについて職員の理解を深める。
- 前年度の業者テストの分析結果から、特に子どもたちがより苦手とする単元でユニバーサルの3つの視点を生かした学習過程の工夫を取り入れた授業づくりを行う。また、「数と計算」領域以外の単元でも実践に努める。 ※ 平成30年度のA事業発表も視野に入れて

#### 7 研究組織



#### 8 研究計画

平成29年度～平成31年度

複数問題を取り入れた学習過程の工夫をした授業のあり方  
(成果と課題を明らかにして、改善を加えながら実践していく。)